篠山城　兵庫県丹波篠山市北新町 2-3

大坂城の豊臣秀頼の存在を警戒する徳川家康は、慶長 14 年（1609)、浅野幸長・蜂須賀至鎮・加藤嘉明・ 福島正則ら豊臣恩顧の大名を動員して新たに篠山城を築いた。いわゆる天下普請とよばれるもので総奉行は池田輝政、縄張りは築城の名手藤堂高虎が手がけた。15 ヶ国、20 の大名の夫役、 総勢 8 万人の労力による大工事でわずか 6 ヶ月という短期間で完成した。 山陰道の要衝である丹波篠山盆地に城を築くことによって、大坂の豊臣氏をはじめとする西国諸大名のおさえとするのが目的であったとされる。完成後、松平康重が八上城から移り、以後、松平氏 3 家 8 代と青山氏 6 代といずれも徳川譜代の有力大名に引き継がれた。江戸時代、260 年余の幕藩体制のもと、篠山藩 5 万石の政治・経済・文化の拠点としてその役割を果たし、二の丸は、大書院・小書院・中奥御殿・奥御殿・台所などの建物と築山を持った庭園からなり、 儀式・執務を行う公的な場として城主の生活空間である私的な場として篠山城で最も重要な場所でした。

篠山城説明版

大手門の入り口

濠と犬走

算木積み

刻印が残る石垣

篠山城の鬼瓦

時の鐘に使われていた梵鐘

当城特徴の一つである大書院

大書院

天守台